

# 戦後80年 海岸工場空襲による殉職者慰霊祭式典開催される!



写真提供: (株)日立製作所日立事業所



# 日工同窓会日報




第470号

2025年7月30日発行  
日工同窓会広報委員会  
編集責任者

瀧澤 之靖

発行人 細金 敦

日工同窓会事務局  
日工同窓会館

〒317-0077

日立市城南町5丁目14番13号

TEL (0294) - 21 - 5237

FAX (0294) - 21 - 5241

E-mail:

dosokaij@net1.jway.ne.jp

http://nikkoudousoukai.net/

印刷所

大成印刷株式会社

日立製作所日立事業所は、6月10日、太平洋戦争末期の空襲による戦災殉職者を悼む慰霊祭を約30年ぶりに遺族を招いて式典を開いた。当事業所は、6月10日を「戦災の日」とし、毎年空襲が始まった午前8時51分に黙とうを行い、事業者幹部が防空壕跡にある「殉難の碑」と成沢霊園にある「陶輪碑」をお参りしている。

昭和20年（1945年）6月10日朝、100機以上の米爆撃機B29が日立上空に飛来し、軍需工場だった海岸工場に500発以上の1トン爆弾が投下されて工場は壊滅した。最も安全であると信じていた防空壕は地下工場があると思われ、集中して攻撃されて非難した多くの従業員が防空壕の中で生き埋めになって634人の従業員が命を落とした。

その後7月に日立市は艦砲射撃と焼夷弾攻撃で焼土と化し、多くの市民が命を落とした。

今年6月10日には、市内のホテルで慰霊祭を開催した。徳永社長をはじめ遺族や日立関係者ら約200人が手を合わせた。列席した市遺族会副

## 今号の主な内容

戦後80年海岸工場空襲による戦災殉職者慰霊祭式典、日立支部総会 1〜2面  
佐和・神奈川・日高支部総会 3面  
在会25年・10年同期会、  
日高支部懇親ボウリング大会 4面  
第1回役員会議事録、会計監査報告 5面  
学校だより 6〜7面  
本部会員の頁 8〜11面  
野球部インタビュー 12面  
日専校野球部後援会、壮行会表彰、若年者ものづくり競技会壮行会、同期会に関する考察 13面  
日専校歴史写真(20)特称任用、職制任用・会員の消息・編集後記 14面  
15面  
16面

## 忘れじの昭和20年6月10日

会長、戦災殉職者遺児の矢代克己氏(39卒)に今回執筆をお願いした。矢代氏は当時9歳で会瀬電機製作課の工長だった父道夫さんが崩落した防空壕の中で生き埋めになり、数日後に遺体で見つかったという。

太平洋戦争末期の昭和20年6月10日、アメリカ軍のB29爆撃機による数次にわたる攻撃で海岸工場は壊滅した。また、休日出勤していた従業員の多くが犠牲となった。

6月10日の前日は休電日であったが、三笠宮殿下が激励に来られたので、全員出勤して、翌日は振替休日であった。

6月10日は雲一つない晴天で、穏



同窓会ホームページはスマートフォン等からも上記のQRコードを読み取るだけで簡単にアクセスが可能です!

やかな朝を迎えていた。当日は振替休日のため防護団規定による休日防護出勤者を含めて空襲警報発令時において防護団員など要職にあつた従業員が全従業員のおよそ10%に当たる千六百人が出動していた。

8時過ぎ、屋上監視から「敵機見ゆ」の報が突如として伝達される。総本部から待避命令が発せられ、最も安全と思われていた地下防空壕に多くの従業員が避難した。第一波から第四波までの攻撃時間は凡そ30分。整然と立ち並ぶ海岸工場は僅か30分の間に見るも無残な姿に変わってしまった。

第三波、第四波は地下防空壕のある上台が集中的に攻撃された。敵は地下防空壕に地下工場があるのみで、攻撃を集中して行ったと思われる。攻撃が止んでから、自宅待避していた従業員が続々駆けつけ、埋没者の救出に必死の努力が始められた。日立市及び近隣の消防隊、日立鉱山、東部第三十七部隊等から多くの応援隊が駆けつけ、消火と救出に当



(1頁の続き)  
たった。

各防護団は地下壕埋没者の救出作業に全力を集中した。死傷者は日立病院に収容することにしたが、病院には死者の安置所がないため、日立高等女学校(現日立二高)を借用することにした。

防空壕の発掘作業は空襲の危険を顧みず、探照灯の光の下に不眠不休必死で続けられた。しかし、必死の救助作業も空しく、残念ながら最終的には63名の従業員が亡くなった。

6月11日午前7時田沼日立工場青年学校(現日立工業高校)に全員が集合し、土気高揚の大会が開かれた。この時、当時の大西工場長は「今ここで『職場に必ず出勤する』と約束できるものは手を上げて貰いたいと悲痛な声を上げ、また、諸君の左手に傘をさして、右手にハンドルを取れ」とおっしゃったと言う。

6月20日時点で亡くなった従業員第一回の合同慰霊祭が執り行われた。参列した小平浪平社長は「工場

や建物は爆弾で潰されるが、日立精神は潰されない。日本国がある限りは続く」と言った。日立市はその後、7月17日土砂降りの真夜中、艦砲射撃があり、7月19日夜半には焼夷弾攻撃があり、日立市は焦土と化した。

今では殉職者の多くを出した上台はすっかり整地され、樹木が植えられ、聖地として、小平創業社長にちなんで「おだいら台」と改められ

そこには小平創業社長の精神を伝える偉業を記念すると共に、戦災殉職者をはじめ日立製作所に功績を残した人々を偲ぶ趣旨で小平記念館が建設された。

その後、大甕ゴルフ場の敷地内に移設され、内容を新たに「Hitachi Origin Park」として整備された。「おだいら台」の創業小屋のあった所には戦災資料館があり、6月10日の戦災の様子を詳しく知ることが出来る。日立製作所は戦後80年、幾星霜を経て、時代の変化に機敏に対応しながら発展を続けている。

日立事業所では毎年6月10日には爆撃のあった時刻に合わせて、全従業員が殉職者に黙祷している。こうした行いが、戦争を知らない世代の従業員に、日立製作所の企業文化の

**日立支部2024年度総会開催!**

2025年3月28日(金)日立支部は、2024年度総会を盛大に開催しました。今年度のスローガンは「強い絆と変わらぬ絆で 息吹を繋ぐ 次なる時代へ」。この言葉のもと、支部では1年を通じて多様な活動を展開してきました。

総会は、鈴木支部長の力強く温かい開会挨拶から始まりました。続いて、日工同窓会本部の細金副会長、御来賓の吉成本部長からも、まるで

一面を連綿と伝えていく大切な行いではないかと確信する。また、日立工業専修学校では毎年欠かさず、1年生が陶輪碑にお参りしている。日立製作所に学ぶものとして、大切な行動であると思う。

そして、鬱蒼として生い茂る木々の森に囲まれている「おだいら台」が聖地としてあり続けることが、日立製作所が発展し続ける将に「ORIGIN」なのではないかと思えてならない。

**参考資料**

- (1)昭和20年6月10日 日立工場戦災記録
- 昭和32年10月30日発行 日立戦災秘話
- (2)日立戦災秘話 昭和51年9月30日発行

申し合わせたかのように「絆や「次世代への継承」に体感に包まれました。対面でのイベントが戻りつつある中、事業所幹部をはじめ、同窓会本部、労働組合、議員団の皆様にもご臨席いただき、支部活動の成果を共有するとともに、今後の展望について意見を交わす貴重な機会となりました。

新型コロナウイルスの第五類への引き下げから約2年が経ち、今では新型コロナウイルスに怯えることなく過ごせる毎日が当たり前となり、まるで何十年も昔の出来事のように感じら



れる場面も増えてきました。今回の総会は、そうした時代の変化を象徴するような賑わいに包まれました。旧友との再会は参加者にとって大きな喜びであり、懐かしい仲間と酒を酌み交わしながら語り合える場は、かけがえのない時間となりました。

また、恒例の抽選会では、豪華景品が次々と当選者の手に渡り、会場は大いに盛り上がりました。景品を受け取る瞬間には、まるで学校時代に戻ったかのような和やかで無邪気な雰囲気広がりが、笑顔と拍手が絶えない楽しいひとときとなりました。今後も、会員同士のつながりを大切にしながら、交流の場をより多く提供できるよう、支部役員一同、力を合わせて活動を続けてまいります。

後藤 和美 (79卒)



佐和支部2024年度総会を開催！

2025年4月18日(金)、佐和支部の2024年度総会を開催しました。

今年度の総会は、佐和支部会員375名に対し112名と前年度に比べ出席者が若干少ない印象でしたが、ご来賓及び新人の方々も含め盛大に開催することができました。

支部長のあいさつに始まり、24年度の活動・決算報告、25年度の新体制・予算報告などを滞りなく行い、第1部の総会は厳肅な雰囲気終了



しました。その後、会社幹部の皆様、同窓会本部の松浦代表副会長など計16名のご来賓の皆様をお呼びして、第2部の懇親会がスタートしました。

今年度は、乾杯前のお酒の提供を制限しました。そのおかげか、支部長、来賓の皆様の挨拶は全員が真剣に耳を傾け、とても集中していたように感じました。そして、待ちに待った乾杯の時間、今か今かと待ちわびた皆さま、乾杯のご発声とともに、あつという間に1杯目を飲み干して2杯目へと進んでいました。笑

神奈川支部総会開催される！

6月20日(金)、支部会員並びに同窓会本部の総務企画委員会主査の本間信宏氏(78卒)にご出席いただき、総勢19名出席のもと2024年度神奈川支部総会を開催した。

支部総会では24年度の活動報告、今後の活動方針などについて審議し、全会一致で可決された。

総会後の懇親会では、生徒募集のため日専校の先生方が今回初めて秦野市内の全中学校へパンフレットを配布したことを紹介し、会員のお子様へも日専校を紹介いたたくよう協力を依頼した。

生活においてとても貴重であると改めて感じます。あつという間に時間は過ぎて懇親会もいよいよ終盤、お待ちかねの抽選会や、毎度恒例の校歌・寮歌斉唱など、盛り上がり過ぎて収拾がつかない場面も若干ありましたが、無事にお開きを迎え2024年度のイベントを全て終了することができました。次に皆さまとお会いできるのは9月のビアパーティになります。2025年度も会員の皆さまと一緒に楽しい時間を過ごせるよう役員一同で頑張りたいと思います！

菊池 義幸(78卒)



コロナ禍による勤務形態の変化や神奈川支部では秦野事業所以外で勤務する会員も多く、会員同士が顔を合わせる機会が減ってきているが、当日は久しぶりに再会した会員と共に夜遅くまで絆を深めることができました。

大内 秀芳(72卒)

日高支部2024年度総会

3月21日(金) ホテルテラスザスクエア日立にて支部総会が参加者45名にて開催された。

和気あいあいとした雰囲気でお話弾む様子が各所で見られた。企画

委員が取り仕切ったビンゴ大会に進むと皆の顔色は一遍、緊張の中、見事支部長賞に当選したのは千葉純一氏(84卒)！商品と共に櫻村支部長と固い握手を交わし、次期役員にも立候補宣言(笑)、大いに盛り上がりを見せた。



最後は肩を組み、校歌斉唱、日高支部の絆を感じた総会だった。

矢部 克行(86卒)

在会25年(86卒)同期会開催される!

6月28日(土)にホテルテラス  
ザスクエア日立において、在会25  
年(86卒)同期会が開催されました。  
同期会には中退したメンバーを含  
め総勢28名が集結しました。集合



写真撮影後に現在、日専校の先生  
である遠藤春樹さんの乾杯の挨拶  
から始まり、クラス毎にテーブル  
で分かれて互いの近況報告や学生  
時代の懐かしい思い出話で大いに  
盛り上がりました。卒業以来、25年ぶりに顔  
を合わせた仲間もいま  
したが、会って話をす  
ると学生時代に戻った  
ような感覚になりました。  
これは同じ屋根の  
下、同じ釜の飯を食い、  
苦楽を共にした仲間だ  
からこそ30年経っても  
色褪せない絆なのだ  
と思います。

本同期会を機にS  
Nの繋がりも出来たの  
で、今回参加出来なかつ  
たメンバーも交え、5  
年後はもっと多くのメ  
ンバーが集まってくれ  
ることを願います。  
最後に本同期会を企  
画、開催していただい  
た同窓会本部総務企画  
委員会をはじめ、役員  
各位に厚く御礼申し上  
げます。

遠藤 康隆(那珂)

在会10年(101卒)同期会

6月14日(土)にホテルテラス  
ザスクエア日立において在会10年  
(101卒)同期会が10名参加で開催さ  
れました。卒業後初めての同期会  
ということで久しぶりに会う同級  
生と学生時代の思い出や、それぞ  
れの近況などを語り合いながら楽  
しくお酒を頂くことが出来ました。  
また、今回は日立グループ・日工  
同窓会を離れているメンバーも参  
加させていただくことが出来まし  
たので、様々な理由で参加を見送っ  
ているメンバーにも参加を促し、  
次回の同期会ではより多くの同期  
で楽しい時間を過ごせるよう、こ  
れからも同期生間の連携を強めて  
いきたいと思えます。



最後に、本同期会を企画いた  
だきました同窓会関係者の皆様に深  
く感謝申し上げます。101回卒同  
期会の報告とさせていただきます。  
ありがとうございました。

小室 凌人(多賀)

日高支部  
懇親ボウリング大会

7月12日(土)、日立ボウルク  
レールにて懇親ボウリング大会が開催  
された。

1年ぶりのボウリングとなる会  
員が大半ではあるが豪華景品が並  
んでいるのを見れば不思議と気合  
も入る。目玉商品は支部長賞、1



位ともに『米』である。  
一投一投に一喜一憂し、ストラ  
イクが出れば歓声が響く。  
支部長賞は齋藤龍二氏(94卒)、  
チーム優勝は齋藤龍二氏、齋藤太  
氏(88卒)、鈴木光彦氏(78卒)に  
贈られた。



景品と心地よい疲労感を手土産  
にボーラーたちは帰路に着いた。  
来年も開催できることを願って  
いる。

芳賀 裕希(93卒)

第1回役員会議事録

6月18日(水) 2025年度第1回役員会が同窓会館で開催された。

一、今泉会長挨拶

新しい校舎、寮を立て替えたい。予算等を含め検討中。

ある支部長から同窓会に入りたくないという人が数名いる。支部長より在学中に同窓会に関する教育をしてほしいという話が合った。学生は準会員であるが、正会員扱い等、皆さんと検討していきたい。

二、松浦代表副会長挨拶

同窓会活動変革の時、これから皆さんと新しい同窓会の在り方について考え挑戦していきたい。

また、役員、本部理事と一緒に役員のあるべき姿をもとに規則等を決めていきたい。

三、役員任命

- 代表副会長：松浦 剛氏(75卒・日立A)
- 常務理事：菊地 匠氏(103卒・日立)
- 常務理事：芳賀 裕希氏(93卒・日高)
- 会計監査：武藤 昌義氏(69卒・山崎)
- 会計監査：永村 修一氏(69卒・佐和)
- 議長：長：小池 克典氏(86卒・山崎)
- 副議長：菊地 匠氏(103卒・日立)

四、年間行事

- ①支部長研修会を9月13日(土)に日専校で開催
- ②女性会員研修会を10月25日(土)に日専校で開催

五、各委員会報告

(1)総務企画委員会

本部役員の人材強化、全員参加で取り組む。狙いは年功者のリーダーシップ、若手が安心、たのしく参加できる環境づくり各グループで活動

②かめチーム・女性会員研修会

③あひるチーム・支部長研修会

④あんこうチーム・会則メンテ、学生会費徴収、事務局移転問題

新体制が始まり、新しいやり方を取り入れ全員参加型で協力してやっていきたい。

(2)広報委員会

・会報を計画的に発行していく。

(3)本部会員運営委員会

・グラウンドゴルフ年2回、わが宿の集いを実施予定

(4)事務局

・ホームページの更新、セキュリティ強化の実施

(5)その他

①日立プラントストラクションが支部発足を推進中

②今年度より学校行事に参加し支援も強化していく。

六、2024年度会計監査報告

会計監査員永村氏より報告

日工同窓会 会計委員会

2024年度 会計監査報告書

1. 監査日時：2025年5月31日(土) 13:30~17:00

2025年6月5日

2. 監査場所：日工同窓会館

3. 監査結果

会計監査 菊池 豊一



2024年度(自2024年4月1日~至2025年3月31日)決算報告書並び

にこれら関係諸帳票・証拠書類などにより監査を実施致しました。

齋藤 貴弘



監査の結果、報告通り相違ないことを認めます。

永村 修一



【補 足】

各委員会および事務局より、関係書類を含む歳入・歳出及び活動内容について、詳細な報告を受けました。

ここ数年、支部の解散等により収入の減少が続いておりますが、そのような厳しい状況の中でも、同窓会活動に様々な工夫が施されている旨の説明がありました。各委員会においても、目的に応じた経費の配分と効率的な運用が行われており、適切な財務管理がなされていることを確認いたしました。

また、昨年度の会計監査にて指摘された事項についても、各項目に検討が行われ、全て改善されていることを確認しました。さらに本年度は、新たな取り組みによる行事も実施されており、完全ではないものの、以前のような活発な同窓会活動への回帰が感じられました。各委員会におけるご尽力により、着実に活動が推進されていることを評価いたします。

それらを踏まえ、下記3点について要望いたします。

(1) 会計帳簿に大きな問題は見受けられませんが、一部の項目において用途が不明確な箇所がありました。つきましては、それぞれの支出について、具体的な使用目的を明記していただきます様お願いいたします。各行事の実施内容が写真等で改善されているのはよかったですと思います。

(2) 現在、役員数が減少していますので、このままの状態にせず早急に体制の強化を図っていただきたいと存じます。あわせて、支部の活性化を促進するためにも、適正な予算の配分とその効果的な活用をお願いいたします。

(3) 本部会員になった際に、自分がどの地区に所属するのか不明確であるとの声が上がりました。今後は、所属地区について明確かつ速やかに伝達いただくようお願いいたします。また、本部会員を含めた全体の会員動向についても、継続的な調査と把握を進めていただきたく存じます。

# 学校だより

## 2025年5月から7月までの 資格試験一覧

この期間に日専校生が取り組んだ資格・検定試験の一覧を記載する。

- 5月19日 溶接JIS検定 (3年溶接科)
- 6月13日 機械製図検定一次 (3学年選抜生徒)
- 6月20日 計算技術検定 (全学年)
- 6月27日 情報技術検定 (3年電気科)
- 7月1日 2級旋盤技能士実技 (3年機械科)
- 7月5日 機械製図検定二次 (3学年一次試験合格者)
- 7月13日 3級電子機器組立 (2年電気科)
- 7月24日 危険物取扱検定 (全学年選抜生徒)

## 助川山ハイキング

3年溶接科(寮委員長)

佐久間 貴大

4月11日、導入教育を担当した寮委員(3年11名)・アドバイザー(2年16名)と共に新入生75名が助川山ハイキングを実施しました。最初はお互いに緊張している様子も見られましたが、歩きながら会話を重ねるうちに打ち解け、笑顔が増えている



助川山ハイキング

くのが印象的で、全員で山頂まで登ることができました。また、中学校や今後の学校生活についてなど、新入生と会話ができて、寮委員・アドバイザーも楽しくハイキングすることができました。学校到着後は食堂で昼食をとった後、同会場にて、新入生と寮委員・アドバイザーのディスカッションを行いました。ディスカッションでは、新入生が不安に思っている事や寮委員・アドバイザーのこれまでの経験談など共有し、さらに仲を深めることができました。今後、本格的に授業・実習がスタートし、1年次に基礎を固め、事業所で必要とされる人材になるための良きスタートとなることを期待します。

## 地区別懇談会を開催

新入生との交友を深める

4月16日、地区別懇談会を開催した。日専校では全国各地から生徒が

入学しており、出身地も様々である。この会は在校生を東北から九州まで11のグループに分け、新入生が同じ出身地区の先輩と初顔合わせをする学校行事である。自己紹介から始まり、先輩から後輩への学校生活におけるアドバイスの他、クイズ・ビンゴ・ダーツなどで親睦を深めた。各教室ではリーダーの生徒が会をスムーズに進行し、皆楽しいひと時を過ごすことができた。新入生はこの行事を通して同郷の先輩方と知り合うことができた。今後、学校生活をサポートしてくれる頼もしい存在となってくれることだろう。



地区別懇談会

## 新体力テスト

自分の限界に挑戦

5月14日、新体力テストを全学年で実施した。天候も良く、予定していた種目はすべて行うことができた。身長・体重などの身体測定と、50メー

トル走、立ち幅跳び、ハンドボール投げの屋外種目、そして、反復横とびや長座体前屈などの体育館種目を行った。さらに通常の種目に加え、日専校独自の学校特別指定種目である、腕立て伏せ、垂直とびも行った。20メートルシヤトルランは、翌日以降の体育の授業内で実施した。生徒たちは体育や部活動で鍛えた運動の成果を大いに発揮し、自分の限界に挑戦していた。食欲に記録に挑戦する姿は立派であった。



新体力テスト

## 1年生が成沢霊園で

戦災殉職者慰霊参拝

6月10日、日立事業所の「戦災の日」に合わせ、1年生による成沢霊園への慰霊参拝を実施した。天候はあいにくの小雨となったが、日専校から成沢霊園までは徒歩で移動。現地で戦災の説明を受けた後、「諸精霊之碑」および戦没者氏名が記され



戦災殉職者慰霊参拝

た「陶輪碑」に参拝した。今年は主催者の計らいにより、僧侶による読経が流れる中、生徒一人ひとりが祭壇に合掌し戦没者を慰霊することができた。この参拝を通して生徒たちは、日立の戦災の歴史を知るとともに、平和のありがたさを感じ、今や遺族の方も少なくなり、戦争についての記憶も徐々にうすれゆく。そんな中、日専校の生徒たちには、戦争や平和への思いを少しでも持ち続けてもらうため、今後も慰霊を継続していきたい。

## 避難訓練を実施

避難場所、経路を確認

6月13日、14時50分頃、授業中に東北地方太平洋沖地震クラスの大規模地震が発生し、震災後の停電を想定した避難訓練を実施した。停電による(7頁へ続く)

(6頁の続き)

り放送設備が使用できなくなるため、今回は拡声器を活用して各学年主任が生徒や教職員を誘導した。訓練では、大きな揺れが収まった後、余震に備え机の下に一時避難し、冷静に避難経路を確認した後、指定された避難場所へと安全に移動した。拡声器による誘導により、混乱を最小限に抑える対応力を養う事ができた他、停電の中でも安全な避難行動を身につける事ができた。今後も定期的に避難訓練を行い、非常時の安全確保に努めていく。



避難訓練

### 野球部壮行会を開催

#### 選手が力強く決意表明

6月30日、体育館において科技高日立野球部の壮行会が行われた。都市対抗野球北関東大会の応援と重なり当初の日程を変更しての実施となった。元氣よく入場した選手20名



野球部壮行会

を職員、生徒、野球部の保護者の方々が大きな拍手で迎えた。選手全員がステージに登壇後、安田龍賀くん(3年機械科)から選手の紹介があり、選手一人一人が大会に向けた決意表明を行った。その後、応援団メイंत्रीダーの指揮で選手たちの活躍を祈念しエールが送られた。また、壮行会には日工同窓会松浦代表副会長も参加され、日専校大応援団に激励品が贈呈された。最後に泉校長から激励の言葉をいただき、選手を代表して坂本桂一主将(3年機械科)が力強く宣誓し壮行会を終了した。尚、壮行会終了後は応援団リーダーと吹奏楽部を中心に応援練習が生徒全員で行われた。科技高日立野球部の活躍を期待する。

### 科技高生活体験発表大会

#### 佐久間 貴大くんが優秀賞

7月2日、第58回科学技術学園高

等学校「生活体験発表大会」が、東京都世田谷区の本校で開催された。発表者は本校および連携校から選出された7名であり、日専校からは3年溶接科の佐久間貴大くんが「成長への道」と題して、寮生活における新入生のアドバイザーや寮委員長として、コミュニケーションの大切さ、成長の喜び、助け合いの精神などについて、多くの聴衆を前に熱く語ってくれた。結果は優秀賞で上部大会への進出は叶わなかったが、夏の大会に向けた野球部活動をしながらか十分な発表練習時間を取ることができない中、学校代表として大変立派な発表であった。



科技高生活体験発表大会

### 全国高等学校野球選手権大会

#### 茨城大会全校応援

7月5日、ノールホームスタジアム水戸で第107回全国高校野球選手権茨城大会の開会式が行われ、84



初戦に勝利 校歌斉唱する野球部

チームの選手が夢の舞台、甲子園出場をめざし開幕した。

7月6日の1回戦はひたちなか市民球場で水海道二高と対戦した。序盤3点のリードを許しながらも中盤以降に反撃し、8回に嶋田瑛斗(2年機械科)、坂本桂一(3年機械科)のヒットで3対3の同点とした。さらに勢いは止まらず、9回に勝ち越し、最終的に6対3で初戦を制した。続く2回戦は7月12日、同じひたちなか市民球場で土浦第三高校と対戦した。2年前に1回に6点を先取したものの、7対16の7回コールドで敗戦を喫した宿敵である。この試合も序盤から3点を追う展開となったが、5回にフォアボールと鬼塚日向吾(2年機械科)、菊池陽翔(2年電気科)、嶋田瑛斗(2年機械科)のヒットで同点とするも終盤に追加点を許し、結果は4対7で惜敗した。

両試合とも白熱した好ゲームであり、選手たちは最後まで諦めることなく全力を尽くした。また、応援団、吹奏楽部を中心とした全校応援も、試合に挑む選手たちの力となった。炎天下の中で声援を送り続けたその姿は、まさに日専校の団結力の象徴であった。この夏の経験は、選手、応援生徒ともに大きな成長の糧となったに違いない。



応援リーダーも勝利を期す



全校生徒で熱い応援

# 第6回ボランティア活動行われる

5月24日(土)、恒例になった本部運営委員会ボランティア活動の第6回目が実施されました。

当日は、天候に恵まれ学校側の配慮により駐車場の確保等の問題はなく、参加者は16人。日専校からは吹奏楽部18人と湯ノ口先生、相良先生の応援をいただき、総勢36人となりました。

日工同窓会創設100周年記念でグラ



ンド法面に植樹した8本の桜周辺の草刈り、野球ネットにまとわりつく蔦の除去、サッカーグラウンドと匠ロード等の除草を行いました。

先ずは、朝礼にて怪我などしないよう安全に配慮する事や役割分担などの指示を受けた後、全員で記念撮影を行いますスタートしました。

参加された方には、各々鎌や手袋を持参頂き、刈り払い機では作業出来ない桜の周辺を鎌で手際よく刈る人、ネット立ち上げ部分を自前の剪定鋏にて刈る人、脚立にてネット上方の蔦をとる人、リヤカーにて刈った草の運搬作業をする生徒等、うまく作業を分担し11時には全員が匠ロードに集合。吹奏楽部女子に出して頂いたお茶で水分補給を行い、各分担の作業状況を確認しながら匠ロードの除草作業を効率よく行いました。

12時には予定した作業が終了し、今回のボランティア活動を企画・牽引した企画小委員と吹奏楽部女子4人の調理による恒例のカレーうどんを堪能。

40人分用意したがあつという間に無くなり、次回は50人分用意することを約束して解散となりました。



企画小調理部



女子生徒が加わり華やかなカレーうどん昼食会

次回(第7回)は11月15日(土)、今回と同じく日専校の桜の手入れを行う予定です。是非、正会員も含めて多くの会員の参加をお願い致します。(企画小委員会)

## コラム 「こだわり人生」 第8回 小島喜代一(48卒)

### 遠隔支部訪問と若手会員の能力向上の思い出

事務局の作業にはいろいろある。例えば月別の出勤管理や業務手当、これらをプログラム化するなど日常の細かいことでもデジタル化して事務効率を向上させた。

話はまったく変わるが企画委員会に所属したときに実施した、遠隔支部訪問や若手会員能力向上についての思い出を記したい。今から30年以上も前の話である。

遠隔支部は配属先に選ばれることが茨城地区に比して少なく、必ずしも日専校の知名度が高いとは言えない。昔は学卒(大学卒業生)に対して3か月の集合教育を日専寮で日専校の生徒と共に寝起きし実施した。寮生の「おぼんです」攻勢は学卒にとって生涯忘れられないとのこと。実習で油にまみれて「トースカン」作りを実施したことがモノづくりの原点にあったという。なぜ、今は実施しないのだろうか。定年までの40年間に比べたら、新鮮な気持ちの三か月間は、無駄とは思えないと考えるが。

遠隔支部訪問の狙いは、勤労部門に日専校の関係者を知って貰うこと

にある。

トップは栃木支部。企画担当の理事と一緒に出かけた。翌朝、支部長宅で頂いた朝食のごはん(今は米という)が美味しかったのでよく覚えていた。栃木の銘柄米か。古米ではあるまい。旭支部では紙幣の交換機を製作している。偽札を判定するため、本物に近い紙幣を造るのに苦労しているとのこと。訪問する支部で何を生産しているか改めて知ることがある。若手会員の能力向上について色々なことを実施した。

職場にワープロが入り始めると多賀工場のサービス学校で操作実習を実施。パソコンが入り始めると、水戸のコンピューター学院でパソコンの字から学んだ。当時はこれらの教育機関が少なく苦労した。料理教室も実施した。多賀にある婦人の家で、女性講師により定番の肉ジャガとみそ汁を作った。オリエンテーリングの準備で山中を走り回ったことも。

忘れられないのがスキーツアーだ。私はスキーをしたことがないので、初めての雪景色の一面モノクロの世界に感動した。若い連中と一緒にスキーをしてケガをしたりしたら迷惑をかけるので、控えの家のストープで暖を取りながら音楽を聴き一人待った。宿泊旅館の宴会ではがぜん張り切った。目的はお座スキーということだ。

# 第4回グラウンドゴルフ大会開催される

6月13日(金)、第4回目のグラウンドゴルフ大会が、鵜の岬特設コースにて前回より3人多い21人の参加で実施された。

開催が会場予約の関係で当初予定より1週間遅く、更に会報発行の遅れにより大会案内発送が遅れたため、

過去の参加者にメールや電話で参加を募った大会となった。幹事集合の8時には多くの参加者も集合して一緒にコース設営を行った。

コースの目印が草に隠れており、苦労しながらのコース設営となった。コース設定の遅れにより20分遅れで開会式・全員での記念撮影を行った。

参加者21名を4組、2班に分け、「ほまなす」「しおさい」それぞれのコースに分かれて、企画小委員会小室主査のホイッスルを合図に同時にスタートした。

人数が1名多いDグループ6人は、他のグループに時間を合わせるため、駆け足でプレーしていた。休憩・水分補給を挟みながら、当初4ラウンドを予定していたが、時間と体力の問題で参加者の意見により急遽3ラウンドに変更した。

時々ホールインワンの歓声が聞かれ、和気あいあいのうちに全員が全ホールのラウンドを終え

ることができた。

昼食は鵜の岬本館の大広間に場所を移し、表彰式と豪華な会食が行われた。

なお、次の第5回は9月26日(金)で、前の週20日(土)の「我が宿の集い」と2週連続になっている。

豪華な食事や温泉入浴が格安で出来る鵜の岬も良いが、奥様同伴の大会や参加者を増やすため場所を変更したいと思うが、設営スタッフ不足でありどうしても鵜の岬になつてしまふ。設営スタッフの参加と設営が簡単な会場の情報提供をお願いしたい。

今回の結果は、以下の通りです。

■参加者 21人

■優勝 川崎 良文氏(54卒)

■準優勝 佐藤 茂次氏(53卒)

■第3位 小林 裕満氏(46卒)

■ホールインワン賞 小林 裕満氏(46卒)

佐藤 茂次氏(53卒)

川崎 良文氏(54卒)

鈴木 勝氏(56卒)

石井 浩氏(58卒)

田中 満氏(59卒)

企画小委員会 田中 満

(59卒)



【豪華な会食御膳】



【会食風景】



【ラウンド風景】



【ホールインワン賞の皆さん】



【右から小林, 川崎, 佐藤氏】



【優勝：川崎氏(右)】

水戸地区

昨年に引き続き懇親会開催

4月5日(土)、昨年に引き続き懇親会を水戸駅南の「らんま」にて開催した。

参加者は5人と少数であったが、当初の計画通り開催した。

初めに地区長から昨年の水戸地区及び同窓会本部の動向報告を行った。

本部関係では、会社の事業再構築に伴う製造部門の統廃合等で、多くの会員が異動や退会を余儀なくされ



たり、準公金の廃止により本部会費納入が困難となるなどの事情で解散する支部もあり、会員が大幅に減少し同窓会活動も大きな転換点を迎えつつあることなどを報告した。  
また、水戸地区も会員の高齢化が進み体調悪化などの理由で参加者が減少傾向にある状況を報告した。  
懇親会は、水戸地区宴会隊長の51回卒高野氏の乾杯の音頭でスタート。久しぶりということもあり、同窓会仲間と飲む生ビールの味をかみしめながら、和気あいあいとした雰囲気でのスタートとなった。

飲み物も一通り回って、滑舌がよくなったところで自己紹介兼近況報告に移っていった。皆さん共通の話題は、健康管理と持病の話であった。  
時間の過ぎるのは早く、最後は来年も健康で元気に再会しようと誓い合い、参加者の中で最長老の48回卒大川氏の締めで閉会した。



押野 勝(59卒)

42回卒

米寿祝い同期会開催

5月25、26日一泊二日で4年ぶりの同期会を「米寿祝い」として開催した。

正確には、来年が米寿であるが、祝い事は早いほうが良いとの意見を受けて、この日の開催となった。

場所は、日立駅近くの「ホテルテラスザスクエア日立」で実施した。

これまで参加者が20人以下となったことはなかったが、さすがに高齢のためか今回は10人の参加となった。いやあー、皆元氣そうだね！



それぞれ80歳後半とは思えない若さは、趣味を楽しみ、個々の健康法を信じながら日々を過ごしているからだろう。  
2時間の宴会に続いて幹事の部屋に移り二次会、じっくりと懇親を深めた。  
初めて選んだ洋式の会場であったが、都会的な気分を味わいながら十分元気を発散できた。  
母校日専校に入學した昭和29年は、戦後復興の最中で厳しい環境であったが、3年後の卒業の頃には世の中の景気が急激に立ち上がり、電源開発の波にのって特に重電部門は、配属後まもなく職場の中心となっていた。

60歳で定年退職し、それから28年になろうとしている。  
1年おきに同期会を継続して開催できたことに感謝している。  
(齋藤 實則)

59回卒

屋形船にて古希を祝う

5月22日(木)、退職後に船の修理会社を経営する同期の緑川君の計らいで、東京品川の屋形船「船清」(ふなせい)にて23人の参加で古希祝いの同期会を開催した。

当日は、日立駅8時に集合し貸切バスで出発。大甕駅で2人、那珂インター手前のコンビニで3人が乗車し、常磐道を一路東京方面に向かい、10分間の休憩を兼ねた友部SAにて笠間方面からの2人が乗車してバス利用の20人全員が揃い、東京へ向けバスを進めた。



(10頁の続き)

都内に入ると渋滞がひどくなり予定より15分遅れで目的地に到着し、現地集合の3人と50年ぶりに再会、同期の仲間との久々の再会で喜びに満ち溢れた。

屋形船未経験者が多くワクワク、ドキドキの雰囲気の中、船内では女将より船の安全についての注意事項と船内の説明があり、まもなく出航。呑み放題のため、それぞれが好みの飲み物を注文して乾杯。

女将の計らいで用意して頂いた紫の「ちゃんちゃんこ」を全員が交代で着用して記念撮影しているうちに船はお台場に到着。そこでは、お台場の地名の由来について説明があり、停船して待望のメイン料理「揚げたての天ぷら」を堪能し、更に酒が進んだ。

それから船の展望デッキに移動し、今話題のフジテレビ社屋をバックに集合写真を撮影。楽しい時間はあっという間に過ぎ、予定の時間をオーバーしてバスの待つ船着場へと移動した。

遅れて来た為見学できなかった待合室などを見学し、現地集合の3人と11月9日(日)に開催する「59会」での再会を約束して別れた。

帰路のバスメンバーは予定の18時30分に日立駅に到着し11月の再会を約束して解散した。

(小室 道男)

62回卒

入学50周年記念同期会開催



去る5月10日(土)、62回卒同期会を日立市天地閣にて盛大に実施した。

校に入学し、同じ釜の飯を食うメンバーとなつて以来、50年が過ぎたことを記念しての同期会であった。

今年1月から有志を中心に計画を立て、LINEやSNSを通して参加者を募り、メンバー同士で連絡を取り合い最終的に37人から参加希望を頂いた。

また、鶴田君からの提案で卒業アルバムと在会30周年の写真を編集したDVDを参加者全員で視聴することも盛り込んで計画した。

当日は、体調不良等で3人が欠席となり34人(内ホテル宿泊者14人)の参加となったが、遠くは青森県から四戸君、神奈川県からは齋藤君が駆けつけてくれ、同期の繋がりを強く感じた。

開会の前に、今年亡くなられた同期に対し一分間黙祷を捧げ、その後日立市議会議員を歴任した伊藤君の音頭で宴会がスタートした。

久しぶりの再会で昔話をする中で、鶴田君が製作・準備したDVDを観て『懐かしいなあ。若かったなあ』と大声で笑いながら、酒を酌み交わして皆で語り合った。

一人ひとり近況報告も交えて壇上でスピーチをして盛り上がり、あっという間に3時間が経過した。最後に「次は4年後、古希での同期会の開催」を誓い合った。

そこで宴会はお開きとなったが、その後も二次会会場(ホテル内の部屋)で語り合い、最後に締めた時は12時を回っていた。

今回の写真も鶴田君がたくさん撮影し、その写真も編集してDVDにしてもらい、会場で放映したDVDと一緒に後日、参加したメンバー



鶴田君製作のDVD

各人に届けてもらって参加者からは多くの感動の連絡がありました。

り、記憶に残る記念同期会にすることができた。

(古館 末男)

66回卒

同期会幹事会開催

3月22日(土)、66回卒同期会幹事会を日立駅近傍の「萌え木」にて開催しました。

同期会立上げ時の幹事4人に新たに3人を加えた7人が参加、66回卒同期会の今後の運営について語り合いつつ、久しぶりの懇親を深めました。

従来、主力を占めていた日立地区の会員減少が著しく、今回、水戸・ひたちなか地区から脇君、西野君(旧姓小野瀬)という強力なメンバーが加わり、更に、日立地区でモノづく

り活動や技能五輪出場選手の活躍に大きく貢献している臨海工場の後藤君にも参加してもらいました。

今年の3月末日で製造部門の大半を閉じることに



なった、旧国分工場出身者としては、皆さんのモノづくりに対するポジティブワードの数々を感じると

共に、新たな力をもらった気がしました。

一方昨年、隅田川の屋形船を貸し切って開催した懇親会では、遠方からも多くの同期が駆けつけ、非常に好評でしたが、その際に作ったグループLINEで頻りに情報交換を実施する中で、ゴルフなど同じ趣味の繋がりができたり、一気に同期の輪が広がっています。

文末に、幹事数名のメールアドレスを記載いたしますので、66回卒の皆さんには是非ご連絡を頂き、新たに輪に加わって頂きたいと考えます。

今後は、日立会野球部応援団長に返り咲いた後藤君の援護射撃を目的に都市対抗応援ツアーや、松田君が支配人を務める大甕の泉山クラブ特別室での大宴会など、新たなメンバーを増やして実現したいと考えています。

脇 嘉人君

yoshito.waki.vr@hitachi-

hightech.com

後藤 紀昭君

noraki.goto.rt@hitachi.com

三上 豊君

yutaka.nikami.fe@hitachi.com

田中 尚

ta-tanaka@sangyokoyo.or.jp

(田中 尚)

### 野球部インタビュー

6月28日、夏の大会前に日専校野球部へインタビューを行った。野球に打ち込む主力選手たちの思いを伝えたいと思います。



**飯塚 賢一 監督**  
Q、監督から見た、チームの仕上がりをお願いします。

飯「本当に真面目な選手が多くて、それぞれのポテンシャルを持っている子たちが集まっています。大きな舞台、大事な場面になってくると力を発揮できない事がありました。力を持ちながらも勝てなかったチームではありましたが、ようやく力が集結し発揮できるようになってきました。仕上がり具合は順調。だいぶ良くなっているというのが正直なところですよ。」



**宮内 大貴**  
(3年 投手)  
Q、ピッチャーとして気を付けていることは何ですか？

宮「気をつけていることは、気持ちを出すのも大事ですけど、気持ちを高める時に上がりすぎない。連打とか

浴びた時に、相手の流れに持っていかれそうになった時に、自分のテンポが崩れ、本来のピッチングができない事があるので、常に平常心、気持ちを落ち着かせるようにしています。」

Q、3年生として後輩たちに残す言葉をお願いします。  
宮「後輩たちには、自分たちが入学してきた頃から科技高野球部では「アグレッシブ野球」という、積極的にプレイすることをテーマにしているので元気に野球を楽しむ、消極的にならずに、野球をしてほしいです。」

Q、応援してくれている親御さん一言をお願いします。  
宮「小学校の頃からずっと応援してくれました。応援してくれたこと、野球を教えてくれたことへの恩返しができるよう、最後まで全力で戦いたいです。」



**坂本 桂一**  
(3年 捕手)  
Q、キャッチャーを3年間やってきた先輩として後輩へアドバイスをお願いします。

坂「1年生の時にキャッチャーをやっていた時は送球を強くすることや走者を刺す面では格好いいと思うんですが、それ以外にもキャッチャーは試合を作るといふ守備の要と言われます。自分のプレイよりも

周りを見ろという視点を、さらに持ってほしいと思います。」

Q、野球部の守備の要として、気を付けていることを教えてください。  
坂「速球が得意なピッチャー、変化球で抑えるピッチャーなど、タイプも様々、性格も一人一人違うのでピッチャーによって配球、パターンを変えることを意識しています。」

Q、後輩へのアドバイスをお願いします。  
坂「自分は高校1年生で入部した時2年生になった時、先輩がいる時に自分達にはあと2年ある、1年あるからいいやと思っていた時もありました。あと1年あるからではなく、あと1年しか無いと思うことで、時間には限りがあり、少ない練習時間を有効に、1球1球に集中してほしいと思います。自分でできる練習を増やし頑張ってください。」



**黒崎 優人**  
(3年 一塁手)  
Q、少年野球時代からセカンド一筋の理由を教えてください。

黒「小さい頃から体が小さくて、小技ができるセカンドになりました」  
Q、セカンドはチームにとってどのような役割を担っていると思いますか？  
黒「内野の要だと思っています。」

守備ではノーエラーで確実にアウトを取り、ピッチャーが打たせた球を絶対に取るという意識で臨んでいます。」

Q、バッティングの時に意識していることを教えてください。  
黒「バッティングが良い時と悪い時が自分の中ではつきりしています。悪い時は何も考えずに打てます。悪い時は1打席目に立っただけで分かるぐらいです。2打席目以降は、自分の悪い部分を意識するだけです。」

打席の中では何も考えずに、ピッチャーとの対決を楽しむ。悪い部分は頭の片隅に置いておきます。」  
Q、セカンド以外、やってみたいポジションはありますか？  
黒「他の内野も少し経験があり、ピッチャーだけはやったことがあります。やってみたいと分らない事があるんで、他のポジションもやってみたいと思っていますが自分はセカンド一択です！」



**江幡 龍斗**  
(3年 中堅手)  
Q、外野手というのですが肩に自信がありますか？

江「正直、肩に自信はありません。センターは守備範囲が広いので脚が大事です。」  
Q、ポジションはセンター一筋？

江「以前はレフトをやっていました。3年生の春からセンターになりました。」

Q、センターに抜擢された時にどう思いましたか。  
江「レフトは打席に強い人を配置する傾向があり、そこからセンターになったのは守備を評価されたと思っ嬉しかったですね。」

Q、四番打者ということでのプレッシャーがあると思いますが、その思いを教えてください。  
江「小中学で四番を打つことがあったのですが、プレッシャーで打てない事もありました。四番はホームランを打つイメージがあると思うのですが、僕はダサイ当たりでも打点を取るのが大事だと思っています。」

Q、内野でやってみたいポジションはありますか？  
江「中学校の頃はピッチャーを、2年の秋にはファーストをやっていました。ピッチャーは肩を痛めて、ファーストは打者との距離が近いのでより集中力が必要で、外野が一番いいですね。」

チームが仕上がっていることを感じられるインタビューでした。ベストな状態で初戦に望んでください。



# 日専校野球部後援会

2025年4月1日

## 2024年度 日専校野球部後援会 会計報告

2024年度決算（2024年4月～2025年3月）



項目	内容	金額(円)	備考
歳入	繰越金	¥552,734	2023年度より繰越
	利息	¥172	
	支援金	¥327,000	
	以下余白		
(A) 合計		¥879,906	

項目	内容	金額(円)	備考
歳出	①8月山形遠征(宿泊費)	¥448,000	山形国際ホテル
	②振込み手数料(①)	¥462	
	③金属バット	¥84,600	スポーツ寿園
	④振込み手数料(①)	¥462	
	以下余白		
(B) 合計		¥533,524	

次年度繰越金 (A) - (B) ¥346,382

### 日工同窓会員の皆様へ

2024年度も『日専校野球部後援会』に同窓会員の皆様より多くの支援金を賜りました。上記の通り会計をご報告し、野球部スタッフならびに選手一同、心より御礼申し上げます。

2025年度は、4月に1年生13名が入部し、現在は2年生12名、3年生10名の総勢35名で活動しています。

皆様からの支援金は主に遠征合宿の補助金として使わせていただいております。夏季休暇中には山形県遠征を実施し、備品として金属バットを購入させていただきました。今年度は記事の通り第二回戦でBシード土浦三高との対戦で惜敗に喫しましたが、初戦共に力を出し切れた試合であったと思います。

今後とも日専校野球部に対しまして、ご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

\*\*\* 支援金の振込み口座 \*\*\*

中央労働金庫（2963）日立支店（176）普通口座（5010868）

日専校野球部後援会（ニッセンコウヤキュウブコウエンカイ）

後援会への問合せは事務局までご連絡ください。

日専校野球部後援会 会長：加瀬 友和（81卒）  
 監事：吉田 和馬（82卒）、松浦 駿一（83卒）  
 日専校野球部 監督：飯塚 賢一 部長：中山 龍一（68卒）  
 後援会事務局（日専校内） 担当：石塚 潤（75卒）（TEL 080-7758-4186）



### 第107回高校野球選手権

#### 茨城大会出場選手壮行会

6月30日（月）日専校体育館で茨城大会出場選手の壮行会が行われ、代表副会長（松浦）と事務局（石井）の2名が参加した。



最初に出場選手全員の紹介と意気込みの挨拶があった。次に今泉校長より激励の挨拶後、同窓会から必勝祈願と



して「ENERGY in10秒チャージ」を選手・応援スタッフ分216個を（松浦）より贈呈した。

事務局 石井 浩

### 表彰

◎全国溶接協会主催令和6年度第69回全国溶接技術競技会炭酸ガスアーク溶接の部  
最優秀賞（経済産業大臣賞）  
長谷 貴宏氏（100卒・水戸）



◎茨城県溶接協会主催令和6年度第11回茨城県溶接技術コンクール炭酸ガス半自動溶接の部  
特別優秀賞（産業戦略部長賞）  
三浦 玲央氏（99卒・水戸）



第20回若年者ものづくり競技会・壮行会に参加して

7月25日(金)日専校体育館で夏季休暇前の全体朝礼後に8月2、4日に開催される若年者ものづくり競技会選手の壮行会が開催された。

同窓会から本部会員(上野)副会長(本間)総務企画主査、事務局(石井)の3名が参加した。

同窓会として本年度より学校との一体運営をスローガンに学校支援を強化している。

本日は、職種別に指導員へ(本間)主査より本競技会に参加する選手全員に対して激励金の寸志を手渡した。



左から(木田)(金長)(五月女)(嶋田)選手

若年者ものづくり競技大会は、職業能力開発施設、工業高等学校等において技能を習得中の若年者(原則20歳以下)であり、企業等に就業していないものを対象に、技能競技を通じ、これら若者に目標を付与し、技能を向上させることにより就業促進を図り、併せて若年技能者の裾野の拡大を図ることを目的として実施する大会である。

職種、選手名は以下の通り  
・旋盤職種  
嶋田 龍聖選手

競技日: 8月2日(土)  
会場: 徳島職業能力開発促進センター(徳島県)

指導員: 鈴木 秀一氏(75卒)、和田 直樹氏

・フライス盤職種

五月女 大輝選手

競技日: 8月4日(月)  
会場: 広島職業能力開発促進センター(広島県)

指導員: 遠藤 春樹氏(85卒)、鈴木 善勝氏(63卒)

・メカトロニクス職種

金長 真杜選手  
木田 将臣選手

競技日: 8月4日(月)  
会場: あなぶきアリーナ香川

指導員: 齋藤 慎氏(77卒)、松崎 修氏(65卒)

猛暑の中移動も含め大変と思うが、競技会当日は、日頃より訓練した成果を発揮し、選手諸君の健闘を祈る。

本部主催「同期会」に関する考察

2021年に事業売却・合併等により日立グループを離れる支部が増えてきた。そこで日立グループに固執せず、日専校卒業生であれば容易に参加できる行事を取り入れる必要があり『同期会』の開催を開始した。

(1)対象は、在会10年から在会40年(正会員)の5年飛びで開催する。  
(2)同期会参加者には、一人当たり三千円を本部より補助する。在会40年は定年前であり定年退職祝を兼ねるとともに本部会員への入会を促すことを目的に会費全額を本部が補助する。(交通費は対象外)

(3)開催月は、総会月である3月と6月、11月とする。

遠隔支部会員の総会月開催は、旅費が支給される。  
(4)開催場所は、原則テラススクエア日立とする。  
(5)会員外の方は、会費六千円を支払えば参加できる。

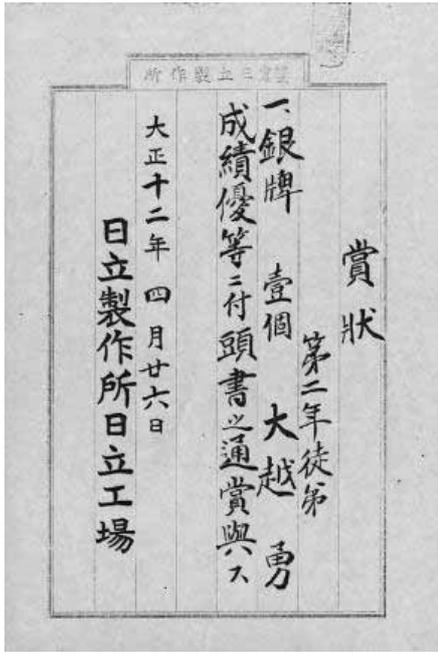
《考察》  
開催案内は、支部長を経由して対象者に出欠確認を行っている。  
表・1に同期会の実施状況と参加率を示した。卒回によって参加者がバラついており、取り纏め者が不在業務が多忙な時期等、個別に理由があると思うが、同期は纏まってほし

いものである。同期がまとまれば支部が活性化し、支部が活性化すれば本部が活性化する。参加率が50%を超えている卒回は、LINEでグループをつくり連絡網を構築している。従って、会員外の方へも声掛けが出来ている。また、91回卒のように28名中8名が専門課程卒であり、その時代の採用枠の課題が浮き彫りとなっている。専門課程卒の同期会を今後どのような形態で実施するのが良いのかご意見を聞きたい。本部としても知恵を出して同窓会が一枚岩になれるよう努力したい。  
事務局 石井 浩(58卒)

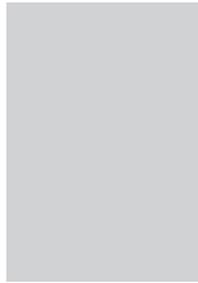
表.1 同期会実施状況と参加率

実施時期	在会	卒回	参加人員	参加率	備考	
2022年度	6月	10年	98回卒	-	-	コロナ禍より中止
		20年	88回卒	-	-	
		25年	83回卒	-	-	
	11月	35年	73回卒	-	-	中止
		40年	68回卒	22名	40%	
	3月	15年	93回卒	4名	-	中止
30年		78回卒	14名	40%		
2023年度	6月	10年	99回卒	15名	24%	居酒屋で開催
		20年	89回卒	6名	11%	
		25年	84回卒	5名	10%	
	11月	35年	74回卒	22名	38%	居酒屋で開催
		40年	69回卒	14名	26%	
	3月	15年	94回卒	26名	35%	居酒屋で開催
30年		79回卒	30名	45%		
2024年度	6月	10年	100回卒	6名	-	中止
		20年	90回卒	21名	51%	
		25年	85回卒	35名	67%	
	11月	35年	75回卒	18名	54%	会員外4名
		40年	70回卒	5名	-	中止
	3月	15年	95回卒	8名	16%	会員外6名
30年		80回卒	22名	56%	会員外6名	
2025年度	6月	10年	101回卒	10名	22%	会員外3名
		20年	91回卒	5名	-	中止
		25年	86回卒	28名	68%	会員外8名

# 日専校歴史写真【20】「優等生の賞状と記念メダル」1923(大正12)年



1923(大正12)年 優等賞の賞状



※本連載では日工同窓会報  
(記念会報含む) から引  
用する場合があります

(12卒 大越勇氏提供)

優等生だけの卒業記念写真。前列左側8名が2年生、右側8名が1年生。12卒大越勇氏(左側2番目)は1921(大正10)年4月に入學し、1923(大正12)年4月に優等生として卒業した。一級後輩の13卒宮崎徳太郎氏(右側6番目)も見える。

1923(大正12)年  
優等生の記念写真と優等賞のメダル



優等賞のメダル

会員の消息

◎結婚

おめでとう  
いっしょに  
いきます



沼田 朝陽氏(104卒・那珂) 25・2・3  
夢美さんと

武弓 泰暉氏(105卒・日立) 25・3・9  
真美さんと

長谷川 彰氏(97卒・水戸) 25・3・10  
菜さんと

長島 勇人氏(101卒・那珂) 25・4・29  
志穂さんと

野澤 駿介氏(104卒・水戸) 25・4・29  
里彩さんと

後藤 和美氏(79卒・日立) 25・6・3  
めぐみさんと

緑川 叶巳氏(102卒・郡馬) 25・6・12  
希愛さんと

◎定年退職

ご苦労さま  
でした



仁平 祐章氏(69卒・水戸) 25・4・30

熱海 勝氏(69卒・水戸) 25・4・30

市川 俊幸氏(69卒・水戸) 25・4・30

佐々木 浩氏(69卒・日立) 25・5・8

植田 一男氏(69卒・佐和) 25・5・31

◎職場変更

生田目晴男氏(72卒・佐和) 25・4・1  
汽車馬達系統(広州) 有限公司↓佐和支部へ

渡辺 和也氏(80卒・国分) 25・4・1  
国分支部↓那珂支部へ

石井 健二氏(81卒・国分) 25・4・1  
国分支部↓那珂支部へ

◎会員逝去

謹んでご冥福を  
お祈りいたします

◎本部会員

中島 正信氏(32卒) 24・11・7  
折本 佐平氏(41卒) 25・3・4

鈴木 常昭氏(46卒) 25・3・18  
鈴木 周郎氏(32卒) 25・6・22

◎ご家族逝去

お悔やみ申し上げます

飯村 英明氏(72卒・日立) 尊父 25・5・10  
藤澤 則彦氏(75卒・佐和) 尊父 25・6・28

お詫び訂正

・10頁新着者紹介

(正) 中山 龍一先生(68卒)

(誤) 中山 隆一先生(68卒)

・12頁讃求会(39卒)より同窓会に  
寄付の中で7行目

(正) 卒寿記念総会

(誤) 傘寿記念総会

第5回グラウンドゴルフ大会開催案内

- 日時：9月26日(金) 8時30分集合
- 場所：鵜の岬(芝生広場)
- 会費：¥2,000(昼食代)
- 申込締切り：9月10日(水)
- 申込先：事務局までご連絡下さい。  
TEL：0294-21-5237、FAX0294-21-5241  
Mail：dosokaij@net1.jway.ne.jp



第51回わが宿の集い開催案内

- 日時：9月20日(土) 12時~15時
- 場所：日工同窓会館(芝生)
- 内容：バーベキュー
- 会費：¥1,000(会員外は¥2,000)
- 参加者：事務局までご連絡下さい。  
\*詳細は同梱の開催案内を参照願います
- 申込締切り：8月29日(金)



歳の話はしたくはないが早いもので今年51歳である。

子供も社会人となりたまに話す会話の内容もひとりの大人と接するのと変わりない。嬉しいやら寂しいやら。

さて将来の夢である。笑われるかもしれないが笑われる筋合いもない。60歳から自分に何ができるか本気で模索中である。楽しみではない自分がある。(光)

異常気象という言葉が毎年のように聞こえるようになってから久しいが、状況の悪化が否めない▼6月なのに真夏の気温。米国や中国の大洪水、欧州の熱波。南半球では寒波に襲われているとのことであり、「数十年に一度」を毎週のように耳にする▼根本原因の解消も取り組まなければならぬが、まずは避難の確認や備蓄対策であろう▼まさかの事態は誰にでも起こり得る。日頃の心構えを怠ってはいけない。(昇)